



## 本格的な大雪となりました！

21日の大寒の暦どおり、18日(月)には強い低気圧の影響を受け、本格的な大雪となりました。数日間は路面の状況も悪く、生徒たちも登下校に苦労したようです。校庭も白銀の世界となり、屋外での活動や部活動ができない状況となってしまいました。しかし、生徒たちは、昼休みに校庭で雪遊びをするなど、元気いっぱいにごっています。



3年生は、3学期になってから私立高校の入試と発表が毎日のようにあり、まさに受験シーズンの真っ只中にあります。20日(水)、21日(木)には中学校最後の期末テストも実施されました。この後、2月の県立高校期選抜、3月の期選抜と続くこととなります。全員が目標を達成し、義務教育9カ年の「有終の美」を飾るよう願っています。中学校生活も残り1ヶ月半となりましたが、今できることに精一杯頑張りたいと思います。

**最高賞を受賞！ 市長賞(齊藤さん1年)  
市議会議長賞(佐藤さん3年)**

新春書道展席書大会

9日(土)に須賀川市子ども育成連絡協議会主催の第55回新春書道展席書大会が須賀川アリーナで行われました。

その結果が15日(金)に発表され、最高賞の市長賞に本校の齊藤なおさん(1年)、市議会議長賞に佐藤怜奈さん(3年)の作品が選ばれました。その他にも推選や金賞に数多くの生徒が入賞し、とてもすばらしい成績を収めることができました。

22日(金)には、中央公民館において表彰式が行われ、特別賞受賞の24名の児童生徒が、市長さんから表彰を受けました。

新年早々、生徒たちのすばらしい活躍に心から拍手を送りたいと思います。

## 《二中生の活躍》

福島県中学校生徒造形作品秀作審査会  
特選 白岩結菜(3年) 菅井花奈(2年)  
福島県下小・中学校音楽祭(3部創作)  
銀賞 奈良坂憲芳(2年)  
新春書道展席書大会  
市長賞 齊藤 なお(1年)  
市議会議長賞 佐藤 怜奈(3年)  
推選 橋本優希(2年) 阿部愛海(3年)  
金賞 1年 佐藤 佳奈 名越 美帆  
熊田 凜  
2年 加藤 杏佳 佐藤 結里  
菅井 花奈 柳沼 采樹  
矢吹 明里  
3年 道寛 亮太 宮沢実彩貴  
佐久間宥輔

1, 2年生にとっては、学年のまとめをして進級に備える時期となりました。何よりも大切なことは、現学年の学習内容を確実に自分のものにしておくことです。今まで以上に学習や部活動に頑張ることができ、頼もしい上級生になってほしいと思います。

TBCこども音楽コンクール全国大会結果  
24日(日)に結果発表があり、東北地区を代表して参加した本校の吹奏楽部は、残念ながら入賞できませんでした。

## YKT(雪かき隊)始動！

18日(月)の大雪で、今年度結成後初めて、YKT(雪かき隊)が活動を行いました。湿った大雪で除雪が大変でしたが、朝早くから登校し、元気いっぱい活動してくれました。とても寒い中、感謝の一言です。



### 「中学校生活を聞く会」を実施！

15日（金）の5校時目に、小中一貫教育に関わる「中学校生活を聞く会」を実施しました。本校から、生徒会役員と生徒指導担当が、小学校3校（須賀川二小、阿武隈小、柏城小）に向き、中学校生活についての話を各校の6年生を対象に話してきました。

各校とも、真剣な態度で話を聞き、質問などを出された学校もありました。中学校生活への希望を胸に入学を迎えてほしいと思います。

4月の入学式を楽しみにしています。



《須賀川二小の様子》



《柏城小の様子》



《阿武隈小の様子》

### プラスイメージの言葉が 子どもを伸ばす！

子どもに注意や指導をするときには、マイナスイメージの言葉はさけた方が効果が上がります。

《マイナスイメージの言葉遣い》

朝は早く起きなくちゃダメでしょ。

そんなこともできないの？

言われないとできないの？

ゲームばかりやってちゃ、ダメ。

すべて否定的な言い方で、言われるととても嫌な気持ちになる言葉です。次のように言い換えると、受ける側のとらえ方も随分と違ってきます。

《プラスイメージの言葉遣い》

朝は早く起きると気持ちがいいよ。

君ならできるよ。

言われる前にやるともっといいね。

ゲームはだんだん減らせると思うよ。

【ピグマリオン効果】

人は期待されたとおりの成果を出す傾向がある。ウソのない期待がモチベーションをもたらす。

ぜひ、参考にしてください。

### こころの窓

「うらやむ、そねむ、ねたむ」の言葉は、あまりいい時には使われません。自分の状況が悪い時に、相手と比較して心の中に表れる感情です。こんな時の心がけとして、自分が恵まれていると思うことが大切です。自分自身の考え一つで変わってくるものです。機関誌「P・H・P」から的一篇を紹介いたします。

#### 恵まれている

人間というものは誠に勝手なもので、他人をうらやみ、そねむことがあっても、自分がどんなに恵まれた境遇にあるか、ということには案外、気のつかないことが多い。だからちょっとしたことにも、すぐに不平が出るし不満を持つのだが、不平や不満の心から、良い知恵も才覚もわきそうなはずがない。そんなことから、せっかく恵まれた自分の境遇も、これを自覚しないままに、いつのまにか自分の手でこわしてしまいがちである。

恵みに対して感謝をし、その感謝の心で生き生きと働いたならば、次々と良い知恵も生まれて、自他ともにどんなに幸せな暮らしができることか、思えば愚かなことである。

だが恵みを知ることは、そう容易なことではない。古来の聖賢が、恵みを知れ、と幾万言を費やしてきても、実感としてこれを受け取る人はどれだけあるのだろう。頭では理解はしていても、心に直接響かないのである。そこに、人間の弱さがある。

お互いに修業をしよう。自分は恵まれているということ、自分の心に響かすために、日常の立居振舞に、今一度の反省を加えてみよう。